

# 2013年度 入試概要分析

各大学の2013年度入試の概要がこの夏にほぼ出揃った。変更点を中心に来春入試概要の分析と、8月に実施された第2回全統マーク模試の志望動向をあわせてお伝えする。

はじめに、2013年度の大学入試センター試験（以下、センター試験）に関する変更と高校卒業者数の変化について触れておきたい。

## ◆2013年度センター試験の変更点

実施方法が大きく変更された2012年度センター試験では、さまざまな実施上のトラブルが発生し、試験後には大きく報道でも取り上げられた。これを踏まえて、文部科学省および大学入試センターがそれぞれで検証委員会を立ち上げ、次年度以降の実施に向けて改善策が検討された。その結果、センター試験の出願および試験の実施において大きく3点の変更がなされる。

まず、出願時に登録した教科を訂正することができるようになる。2012年度より出願時に受験する教科を登録する「事前登録制度」が導入されたが、昨年は出願後の登録教科の変更は一切認められなかった。今年は、登録内容の確認のために送付される「確認はがき」受け取り後に、一度だけ修正が可能となる。ただし、受験生が出願後に確認する期間は非常に短い。10月中旬に出願が締め切られた後、遅くとも11月5日までに確認はがきは受験生に送られるが、この登録内容の訂正は11月9日までである。確認はがきの訂正は高等学校単位で大学入試センターに連絡することとなっているので、この点は先生方にご注意いただきたいところである。

出願時の教科登録上では「地理歴史・公民」は1教科として扱われることとなる。昨年は、両教科が別教科として扱われたため、「地理歴史」と「公民」の受験パターン（どちらの教科を何科目受験するのか）をセンター試験出願時に決定する必要があった。大学によっては「地歴2科目必須」「地歴・公民各1科目必須」といった設定があり、出願時の教科登録次第では、これらの大学の受験ができないという制限が生じていた。今回の変更により、「地理歴史・公民」試験時間帯の受験科目数（1科目or2科目）は、引き続き出願時に登録する必要があるものの、どちらの教科を受験するのかはセンター試験受験時に選択できるようになる。

さらに、「地理歴史」と「公民」の問題冊子は、冊子自体は教科別に作成されるものの、両教科の問題冊子を1つの袋に入れた形（パッケージ化）で配付される。これは、今年度のセンター試験で片方の問題冊子しか配付されなかったトラブルが多発したことを踏まえたものである。

以上が、センター試験の出願および試験実施上に関する変更点である。2013年度センター試験においては、今年起こったような試験時のトラブルの再発がないよう万全の体制で試

験の実施をお願いしたい。

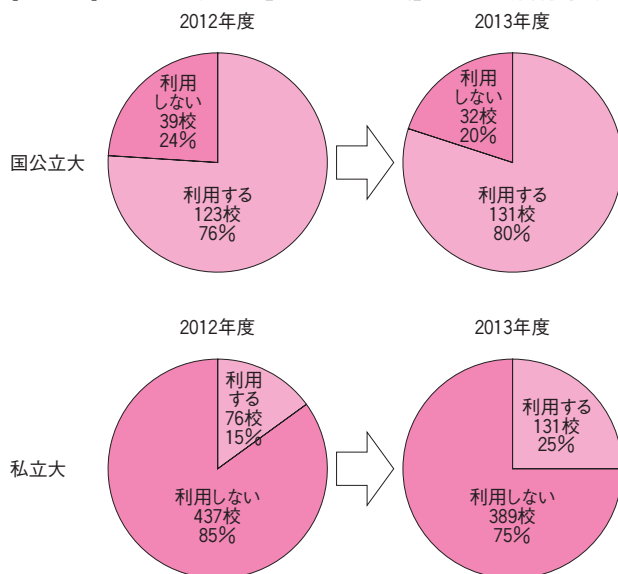
## ◆センター試験「理科」「地歴・公民」 第1解答科目利用校は増加

2012年度センター試験の「理科」「地理歴史・公民」の実施方法変更に伴い、大学入試センターは、大学がこれらの教科を1科目のみ成績利用する場合、2科目受験者の成績は「第1解答科目」を利用するよう要請している。2012年度入試では、この要請が遅かったこともあり、国立大ではほぼ第1解答科目利用となったものの、公立大では半数超、私立大では15%にその利用は留まった。しかし、実施方法変更2年目を迎える来年度は、第1解答科目利用校が拡大している【グラフ1】。

国立大は、唯一高得点科目を利用していた福島大が第1解答科目を利用することとなり、「理科」「地理歴史・公民」を利用する全ての大学が第1解答科目利用となる。公立大は2012年度から6大学増加して81大学中50大学（62%）、私立大は64大学増加してセンター利用校の520大学中131大学（25%）が第1解答科目を利用する。なお、私立大では、第1解答科目利用をやめて高得点科目利用に変更した大学も7校ある。第1解答科目利用校については本誌31ページに一覧をまとめているのでご参照いただきたい。

残念なのは、本誌6月号でも提言した第1解答科目利用時の

【グラフ1】センター試験「理科」「地理歴史・公民」第1解答科目利用校数



※河合塾調べ  
※「利用する」には一部の学部・学科・方式のみの利用を含む、「利用しない」には「理科」「地歴・公民」を課さない大学も含む

**【表2】センター試験 第1解答科目指定にかかわる採点方法の違い**

「第1解答科目」を指定し「理科」「地歴・公民」が他教科との選択で最大2科目までの選択を認めるケースでは、下記の2種類の採点方法が存在し、大学により方法が異なる。

**<A採点>**

「第1解答科目を使用せずに第2解答科目だけ利用することを禁ずる」という条件のもとで、最も得点が高くなる選択科目の組合せを採用する大学

**<B採点>**

その他教科を含めて得点の高い科目を順に採用していき、第1解答科目が採用された場合に限り、その教科の第2解答科目の利用を認める大学

**(採点例)**

C君の受験科目=数学Ⅱ(70点)、理科第1:物理Ⅰ(68点)、理科第2:化学Ⅰ(80点)

D君の受験科目=数学Ⅱ(64点)、理科第1:物理Ⅰ(66点)、理科第2:化学Ⅰ(75点)

○**A採点の結果**

C君=物理Ⅰ(68点)+化学Ⅰ(80点)=148点

D君=物理Ⅰ(66点)+化学Ⅰ(75点)=141点

○**B採点の結果**

C君=数学Ⅱ(70点)+物理Ⅰ(68点)=138点

D君=物理Ⅰ(66点)+化学Ⅰ(75点)=141点

具体的な採点方法で、受験生が納得しづらい採点方法を行う大学があることだ。この問題は「理科」「地理歴史・公民」が他教科との選択科目であるときに、ケースによっては第2解答科目の得点を採用する場合に起こる。詳細は【表2】をご覧ください。表中の例において『B採点』で採点した場合、C君はD君より受験した3科目全ての得点が上回っているにもかかわらず、総合得点がD君を下回るという不可解なことが起こる。これは、『B採点』の第2解答科目の利用方法が、「第1解答科目が採用された場合のみ」と限定されているために起こる。本来は「第1解答科目と第2解答科目の合計点が、他の組合せの合計点を上回れば、第2解答科目の得点も採用」する『A採点』が正しい採点方法であろう。本誌31ページにまとめた一覧では、こうしたケースで各大学が『A採点』『B採点』のいずれを採用しているかが分かるようにしてい

る。現在、国公立大で5校、私立大で11校で『B採点』が採用されている。入学者選抜機能としての試験であれば、1点でも高い得点をとった生徒の努力が報われる『A採点』を採用してしかるべきであろう。

**◆18歳人口は約4万人増加(3%増加)**

来年の18歳人口は前年から約4万人増(3.4%増)の123万1千人である。これに伴って、大学志願者数も18歳人口の増加率程度の増加が予想される。河合塾では既卒の大学志願者数をあわせて68万人程度になると予測する。なお、この夏に河合塾が実施をした第2回全統マーク模試においても前年から約5%受験者が増加している。

# 国公立大学編

**◆後期日程の募集人員減少が継続  
前期募集人員は606名増加**

【表3】は国公立大の募集人員を入試種別・日程別にまとめたものである(河合塾調べ)。後期日程の募集人員が168名減少し、前期日程が606名増、推薦入試が223名増と近年の後期縮小傾向が継続している。

後期日程の募集人員減は、後期日程の募集を廃止する大学の影響が大きい。後期日程廃止の動きは、2006年度以降、難関大や医学部を中心に続いている。2012年度入試では**大阪大(工)**、**東京工業大(第2~6類)**などで後期日程が廃止された。来年度入試においても12大学で一部の学部または学科で後期日程が廃止され、その募集は引き続き縮小している【表4】。

2012年度入試で工学部の後期廃止を行った**大阪大**は、来春入試では理学部および基礎工学部の後期日程を廃止する。すでに同じ近畿圏では**京都大**が後期日程を実施していない。首都圏でも2012年度入試で**東京工業大**が第7類を除き後期日程を廃止し、**東京大**は後期の募集枠が残るものの、理科三類を除く全科類枠100名とその枠は小さい。旧帝大クラスの理工系

志望者にとっては、前期日程一本勝負の様相はさらに色濃くなる。

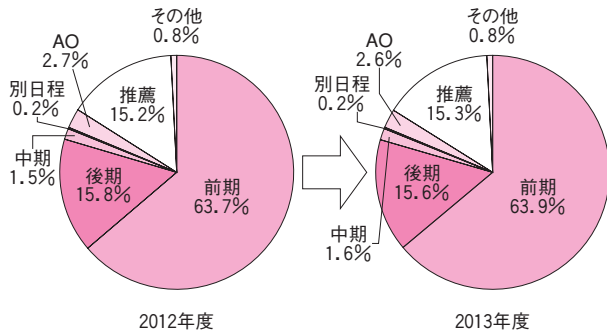
医学部では、2013年度入試は**筑波大**、**群馬大**、**名古屋市立大**で後期日程が廃止される。これにより、後期日程を実施する国公立大医学部は50大学中28大学となった。

このほか、**筑波大**(看護学類)、**静岡県立大**(国際関係)、**京都府立医科大**(医一看護)、**神戸大**(経済)などでも後期日程の廃止、**横浜国立大**(理工)で後期日程の縮小が決まっており、周辺大を含めた志望動向の変化に注意したい。

一方、後期日程の廃止・縮小が目立つなかで、後期日程へ募集人員をシフトする大学もある。来春入試では、**奈良県立医科大**(医一医)、**岐阜大**(工)で大きく後期日程の募集人員が増加する。また、**岡山大**(理)、**九州大**(薬)はかつて廃止した後期日程を復活させる。

**奈良県立医科大**(医一医)では、前期日程の募集人員を43名減(65名→22名)とする一方、後期日程の募集人員を33名増(20名→53名)とする。募集人員とともに入試科目も変更されている。前期日程の2次試験は英・数・理を1試験時間(180分)で実施する試験方法に変更。後期日程の2次試験は、

【表3】国公立大 選抜方法別募集人員の変化



区分	年度	一般選抜				AO	推薦	その他
		前期	後期	中期	別日程			
国立大	2012年度	64,437	16,063	-	-	2,892	11,988	720
	2013年度	64,814	15,866	-	-	2,801	11,975	649
	前年差	+377	-197	-	-	-91	-13	-71
公立大	2012年度	14,559	3,542	1,898	280	463	6,814	313
	2013年度	14,788	3,571	1,933	280	437	7,050	316
	前年差	+229	+29	+35	+0	-26	+236	+3
国公立大	2012年度	78,996	19,605	1,898	280	3,355	18,802	1,033
	2013年度	79,602	19,437	1,933	280	3,238	19,025	965
	前年差	+606	-168	+35	+0	-117	+223	-68

※河合塾調べ ※9/4現在選抜方法別人数未発表の佐賀大(経済)を除く  
 ※「その他」は、社会人選抜、帰国子女選抜などが含まれる

小論文と面接から学科試験(英・数・理)と面接に変更するとともに、センター試験と2次試験の配点割合も900:280から300:900へと2次試験重視型の試験に変更される。例年、後期日程の実施が少ない医学科では、山梨大、信州大、岐阜大のような後期募集人員の多い大学に志願者が殺到する。奈良県立医科大学においても多くの受験生を集めそうだ。

**岐阜大**(工)は、前期日程の募集人員を72名減(297名→225名)、推薦入試の募集人員を35名減(87名→52名)とする代わりに、後期日程の募集人員を107名増(126名→233名)と後期のウエイトが高い募集に変更する。なお、工学部は改組が予定されており、既存の9学科が4学科9コースに再編される。

**九州大**(薬)はAO入試を廃止する代わりに、後期日程を復活させる。募集人員は各学科4名と少ないが、多くの志願者が集まりそうだ。

### ◆2012年度入試変更の余波続く

次に個々の大学の入試科目や選抜方法の変更点について、受験生の志望動向に影響を与えそうなものを見ていこう。

#### ①地歴・公民4単位科目指定の動き

2012年度センター試験より公民に新科目「倫理、政治・経済(以下、倫・政)」が出題された。国立大学協会は、国立大の入試科目としては従来からある2単位科目の「現代社会(以下、現社)」「倫理」「政治・経済(以下、政経)」ではなく、4単位科目の「倫・政」を課すことが望ましいとした。また、地理歴史においても2単位科目のA科目ではなく、B科目を課すことが望ましいとした。これに伴い、2012年度入試では難関大を中心に、2単位科目の選択を不可とする大学が相次いだ。

2013年度入試においては、1年遅れる形で2単位科目を選択科目から外す大学がある。**お茶の水女子大**(文教育、生活科学)、**金沢大**(全学域)、**名古屋大**(教育、経済、理、工、農、

【表4】後期日程を廃止する大学(学部・学科)

- 弘前大(教育-学校-英語)
- 山形大(工(昼間)-応用生命システム工)
- 筑波大(医-医-看護)
- 群馬大(医-医)
- 横浜国立大(理工-建築-地球生態学)
- 静岡県立大(国際関係)
- 愛知教育大(教育-初等理科・初等家庭・中等理科・養護教諭)
- 名古屋市立大(医-医)
- 京都府立医科大学(医-看護)
- 大阪大(理-基礎工)
- 神戸大(経済-経済)
- 岡山大(環境理工-環境物質工)

医、情報文化)、**鳥取大**(医(生命科学除く))、**鹿児島大**(共同獣医)では2013年度より2単位科目の選択が不可となり、4単位科目指定となる。また、**北海道教育大**、**埼玉大**(教養)では、公民の選択科目は「倫理」「政経」が不可となり、「現社」「倫・政」のみとする。

一方、2012年度入試で4単位科目指定としたものの、**長岡技術科学大**、**愛媛大**(法文-人文)では、2013年度入試は2単位科目を選択可に戻す。

#### ②第1解答科目利用の動き

冒頭で述べた第1解答科目利用の動きであるが、国立大では、**福島大**が第1解答科目利用に変更する。これでセンター試験で「理科」「地理歴史・公民」を課す国立大が第1解答科目利用となる。また、一部の学科が高得点利用を行っていた**静岡大**も全学で第1解答科目の利用となる。

公立大では、**札幌市立大**、**青森県立保健大**、**埼玉県立大**、**金沢美術工芸大**、**九州歯科大**、**沖縄県立芸術大**の6校が第1解答科目の利用に変更する。また、**愛知県立大**では看護学部のみ高得点利用であったが、2013年度入試では全学で第1解答科目利用となる。

#### ③難関大の入試変更

次に、難関大の入試変更を確認しておく。

**京都大**では、総合人間学部の2次試験の英語で課されていた「聞き取りテスト」の実施がなくなる。理学部では、センター試験の成績は第1段階選抜のみにしか利用されていなかったのが、最終的な合否判定にも用いられることとなった。センター試験の配点は1200点中225点である。また、2次試験の「数学・理科」の合計点上位30名を優先的に合格させることもやめ、合格者はセンター試験と2次試験の総点で選抜する。工学部では第2志望制度が新たに実施される。工学部の受験者全員を得点順に並べ、その上位者から合格させていく。受験者の第1志望学科の募集人員が充たされていた場合は、第2志望学科の募集人員が充たされていなければ、第2志望学科で合格とする。

**大阪大**では、理学部と基礎工学部の後期日程を廃止するのに伴い、新たな選抜方法を導入する。両学部に工学部を加えた3学部で「国際科学オリンピックAO入試」を合同で実施。また、理学部では、「研究奨励AO入試」と前期日程に従来の一般枠とは別に「挑戦枠」を設定する。「研究奨励AO入試」は高等学校で自主的な研究活動をした者を受け入れる入試として実施するもので、書類選考後、研究成果のプレゼンとセンター試験の成績(5教科7科目)により選考が行われる。「挑戦枠」は「一般枠」とは別に募集人員枠が設定されてお

り、受験生は「一般枠」の第1志望学科について、あわせて「挑戦枠」を志望することができる（「挑戦枠」のみの志望は不可）。「挑戦枠」志望者は2次試験で「一般枠」の科目とは別に、各学科で指定された「専門数学」または「専門理科」の受験が必要となる。なお、「挑戦枠」は「一般枠」とは別に選抜されるため、「挑戦枠」の不合格者は、別途「一般枠」でも選抜が行われる。

**名古屋大**では、前述のセンター試験の地歴・公民の指定科目の変更のほか、医学科（前）が新たに2段階選抜を実施するとともに、2次試験に面接を加える変更がある。また、法学部と教育学部では前期日程の募集人員がそれぞれ5名増となる。代わりに法学部では帰国女子入試が廃止、教育学部では推薦入試の募集人員が5名減員となる。

2012年度入試で大掛かりな入試改革を実施した**東京工業大**では、前期日程で2012年度より新たに設定した基準点について「2次試験の成績が極めて優秀な者は「基準点」に満たない場合があっても合格とすることがある」としていた特例を廃止する。基準点は950点満点中600点で前年と変わらない。

## ◆その他の入試変更

続いて、地区別に選抜方法の主な変更点を見ていこう。

### ①北海道・東北地区

**札幌医科大**（医一医一前）：北海道医療枠を新設

**青森県立保健大**（健康科学－社会福祉を除く全学科－後）：2次試験 小論文減

**弘前大**（教育－生涯－地域生活－前）：2次試験 数学・国語→理科・小論文から1  
（理工－電子情報工－後）：2次試験 新たに理科を課す

※弘前大ではこのほかにも教育学部や農学生命科学部で2次科目の変更がある

**岩手県立大**（総合政策－後）：センター試験 判定利用教科数増

**山形大**（地域教育文化－食環境デザイナー－前）：2次試験 面接→学科試験（英・理から1）  
（工－情報科学－前・後）：センター試験 理科2科目のうち物理が必須に

### ②関東・甲信越地区

**群馬大**（医一医一前）：2次試験 理科（物・化）増

**首都大学東京**（健康福祉（小を課す学科）－前・後）：2次試験 小論文減

**東京芸術大**（美術－先端芸術表現－前）：2次試験 面接→総合実技

**横浜国立大**（理工－機械工学・材料系、数物・電子情報系、建築都市・環境系－前）：2次試験 英語・理科増

※横浜国立大理工学部ではこのほかにもセンター試験、2次試験の科目変更等が多数ある

**横浜市立大**（国際総合科学）：募集区分を3→4学系に変更（新たに国際都市学系を設定）、各学系の前期入試はA方式とB方式の2方式を設定

**信州大**（繊維－後）：2次試験 数学に数学Cが加わる

### ③東海・北陸地区

**富山大**（経済－前）：センター試験 地歴・公民各1科目必須→地歴・公民から2科目

**静岡大**（工－前）：センター試験 5科目→7科目

**浜松医科大**（医－看護－前）：2次試験 英語増

**愛知教育大**（初等－幼児教育－前）：2次試験 国語増

※愛知教育大ではこのほかにもセンター試験や2次試験の科目変更が多数ある

### ④近畿地区

**大阪府立大**（現代システム科学－後）：2次試験 面接→課さない

**神戸市外国語大**（前・後）：2段階選抜を廃止

**奈良女子大**（生活環境－住環境－後）：2次試験 課題（住環境に関する基礎的な表現力を問う）→面接

**和歌山大**（システム工－情報通信システム・精密物質－後）：センター試験 6科目→7科目

### ⑤中国・四国地区

**鳥取環境大**：公立大として来春入試より一般入試は分離・分割方式で実施

**島根大**（法文－社会文化－前・後）：センター試験 英語リスニングテスト利用へ

**島根県立大**（看護－前）：センター試験 地歴・公民増加

**岡山大**（医－看護学－前）：2次試験 国語or理科減（英語・面接のみに）

（薬－薬－前・後）：2次試験 面接減

**岡山県立大**（保健福祉－保健福祉－前・後）：専攻（社会福祉学、子ども学）別募集になる、センター試験科目数6科目→3科目

**広島大**（歯－口腔工学）：新たに後期日程を実施

**山口大**（共同獣医－前）：2次試験 数学科目Ⅲ・C減

**徳島大**（医－栄養－前）：2次試験 数学減（英語のみに）

**愛媛大**（医－看護－前）：センター試験 4科目→5科目

### ⑥九州地区

**九州工業大**（情報工－後）：センター試験 国語増

**九州歯科大**（歯－歯－前）：新たに2段階選抜（5倍）を実施

**佐賀大**（理工－後）：2次試験 新たに学科試験を課す

（医－医－前）：2次試験 総合問題（英・数・生を含む）→学科試験（英語・数学・物理・化学）

※医学科前期は理科3科目（物・化・生）の準備が必要であったが、入試上では物・化のみの対応で受験が可能となる

**熊本大**（教育－生涯スポーツ福祉）：後期日程を新たに実施  
（医－医－前・後）：センター試験 理科2科目のうち生物を必須にする

**宮崎大**（医－看護－前）：2次試験 小論文減

**宮崎公立大**（人文－国際文化－前）：2次試験 英語リスニング廃止

**鹿児島大**（共同獣医－後）：センター試験 7科目→5科目、2次試験 小論文→面接

**琉球大**（法文－総合社会システム・英語文化－前、観光産業科学－前、教育－学校－英語－前）：2次試験 英語リスニング廃止

## ◆大学の 신설、学部・学科の新設・改組

次に新增設や改組・再編の動きについてまとめておく。

### ①大学の 신설

大学の 신설予定は**秋田公立美術大**のみ。秋田市立の美術工芸短大を4年制化する形での 신설で、美術学部美術学科の1学科(入学定員100名)の募集となる。東北地区では国公立の美術系学部がこれまでなかったことから、初年度から注目を集めそうだ。一般入試は、前期日程と中期日程で実施される。

### ②共同獣医学科の設置

2012年度には**帯広畜産大**と**北海道大**、**岩手大**と**東京農工大**、**山口大**と**鹿児島大**で、それぞれの強みを活かした教育・研究の実践を掲げ、共同獣医学部(学科・課程)が設置された。来春は**岐阜大**と**鳥取大**において、ともに自大学の獣医学課程(学科)を募集停止し、共同獣医学科を 신설する。募集はそれぞれで行われる。

### ③その他の学部・学科の改組

**群馬大**が工学部7学科を理工学部5学科に改組する。学部の定員510名に変更はない。

このほか、**宇都宮大**(農)、**信州大**(人文)、**静岡大**(工)、**神戸大**(海事科学)、**佐賀大**(経済)で学科の改組が行われる。**神戸大**(海事科学)は、学部一括で募集されるため入試上の募集区分に変更はない。

## ◆第2回全統マーク模試からみた志望動向

最後に、この夏に行われた第2回全統マーク模試のデータを

ふまえ、来春入試の動向を予測してみよう。

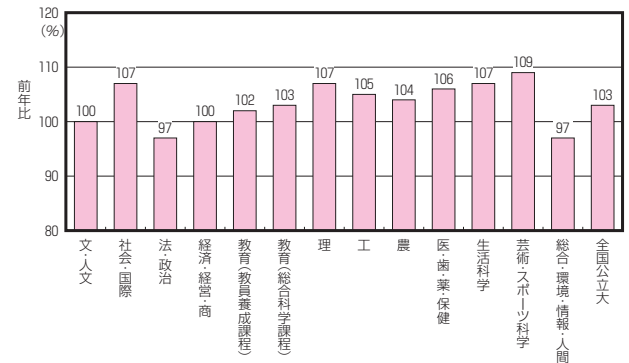
第2回全統マーク模試における国公立大全体(前期日程)の志望者数は前年比103%と増加。受験人口自体が増加が見込まれることから、来春入試で国公立大を目指す受験生の数は増加が予想される。

【グラフ5】は学部系統別の動向を見たものである。「文・理・高」という今春入試の大きな傾向は継続している。文系では今春入試で不人気であった「法・政治」学系が前年比97%、「経済・経営・商」学系が同100%となっており、国公立大全体の志望者が増加しているなかでは低調な人気といえる。

今春入試で志願者の増加が目立った理系の各系統では、「理」学系が前年比107%、「工」学系が同105%、「農」学系が同104%、「医・歯・薬・保健」学系が同106%と志望者の増加が続いている。

入試動向に関する詳しい分析は、本誌12月号で入試直前動向分析としてご報告する。

【グラフ5】国公立大(前期日程) 学部系統別の志望動向(第2回全統マーク模試より)



# 私立大学編

## ◆センター試験制度変更の影響は来年度入試にも継続

冒頭でも述べたように、今春入試から大学入試センター試験の実施方法が変更となった。その影響が来年度の私立大の入試でも続いている。「理科」「地歴」「公民」の第1解答科目利用への変更である。昨年6月に大学入試センターは「理科」「地歴」「公民」1科目を入試科目に使用する場合は第1解答科目を利用するよう各大学に要請した。福島大を除くすべての国立大学と多くの公立大学はその要請にともない対応したが、私立大学は入試本番までの期間が短かったことなどもあり、要請に応じた大学は76大学であった。それが来年度入試で第1解答科目の指定をする大学数は64大学増え131大学となる。来年度から変更する主な大学は**中央大**(商・理工)、**東洋大**、**日本大**、**法政大**、**明治大**、**関西学院大**などである。一方、**石巻専修大**、**ノースアジア大**、**桐蔭横浜大**、**松本歯科大**、**愛知**

**工業大**、**人間環境大**、**京都文教大**の7大学は今春入試では第1解答科目の指定をしていたが、来年度は高得点科目利用に戻す。

## ◆地区別、入試変更トピックス

私立大の入試は大学ごとに様々で、また毎年のように変更されている。来年度の入試ではセンター利用入試の方式の拡大や変更が目立つ。ここでは来年度入試の変更を各地区の主要大と大きな変更のある大学を中心にまとめた。

### ①北海道・東北地区

北海道地区では**北海学園大**がセンター利用入試を変更する。法学部ではセンターI期入試を昨年までの1方式からA方式、B方式の2方式で実施する。法、経済、経営(2部を含む)の

社会科学系学部では、センターⅡ期を導入し受験機会の拡大を図る。

学科やコースでの細かい単位の募集を学部・学科一括募集にまとめる大学が見られる。**札幌大**では学部・学科の改組を機にそれまで実施していなかった学群一括での募集を新たに実施する。**稚内北星学園大**でも昨年までは学科ごとの募集をしていたが、学部一括募集に変更する。**酪農学園大**では農食環境学群を各学類内のコースごとで募集をしていたが学類での募集に変更する。ただし管理栄養士コースはコース募集に変更はない。

東北地区ではセンター利用入試を新規で導入する大学が2大学ある。**岩手医科大**（歯、薬）と、**東北女子大**（家政）である。岩手医科大歯学部の入試科目はセンター試験3教科と面接、薬学部はセンター試験のみ3教科を課す。東北女子大家政学部はセンター試験2教科で入試を実施する。また、センター試験利用入試の実施回数を増やす大学は**八戸工業大**（工、感性デザイン）、**東北薬科大**（薬）、**ノースアジア大**（法、経済）で、いずれの大学も中期日程を新たに実施する。

## ②関東（東京除く）・甲信越地区

この地区では**埼玉医科大**（医）がセンター利用入試を新規導入する。センター試験は4教科6科目、大学独自試験で小・面の入試を課す。**日本保健医療大**も来年度からセンター利用入試を導入する。また、新設2年目の**亀田医療大**は今年度入試は一般方式を実施したが、来年度入試ではセンター方式のみに変更する。

そのほか入試方式や科目を変更する大学としては、**関東学院大**がある。文、法、理工の3学部でセンター方式中期を実施する。文、法学部では3教科、理工学部は2教科を課す。また、一般方式の前期2科目型を全学部統一入試に方式名を変更し、他の既存の入試方式でも入試科目の変更が多い。この大学では昨年も入試方式の廃止や拡大をしており、入試制度改革が進んでいる。

## ③東京地区

**早稲田大**は法学部のセンター・一般合算判定枠を廃止する。これにより、一般方式の募集人員が300名→350名、センター方式が50名→100名と両方式で50名ずつ増加になる。

**明治大**は情報コミュニケーション学部のセンター方式で6科目方式を導入、国公立大の志望者の併願を考慮した方式といえる。一般方式ではA方式・B方式の2方式に変更する。従来からの方式をA方式とし、入試科目は主に文系志望受験生に対応している。B方式は英・数ⅡB・情報総合の3教科で、情報総合では、「情報A」「情報B」「情報C」に共通の基礎部分である情報科学や情報社会に関する問題が出題される。この方式では理系科目を履修した受験生の取り込みを図っている。

**青山学院大**の入試の変更は経済学部現代経済デザイン学科のセンター2教科型の廃止のみであるが、それ以外に就学キャンパスの変更がある。今年度まで新入生の1年次は神奈川県相模原キャンパスで、2年次から青山キャンパスに就学する体制であったが、それが来年度からは1年次から青山キャンパスに就学することになる（ただし理工学部、社会情報学部生は従来どおり4年間通じて相模原キャンパス）。

**法政大**は理工、生命科学部でセンター方式のC方式を導入する。この方式は5教科6科目を課す国公立型受験生向けの方式である。

## ④東海・北陸地区

**南山大**が全学統一入試を導入する。この入試には個別学力試験型とセンター併用型の2方式があり、一度の受験で複数学部・学科への出願が可能だ。個別学力試験型は一般入試とは別日に行われる大学独自試験3教科の入試である。センター併用型は、この大学独自試験で受験した2教科の成績と、センター試験2教科（人文学部は3教科）の成績で判定が行われる。

**愛知学院大**と**中部大**はともにセンター併用方式のセンタープラスを全学部で導入する。両大学ともセンター試験の2科目と一般方式の前期で受験した1科目で判定が行われる。また、**名城大**理工学部は一般方式のM・B・F方式で、複数の学科をまとめた系別募集から学科別の募集に変更する。

**常葉学園大**、**浜松大**、**富士常葉大**の3大学は来年度より**常葉大1**大学に統合される。今まで各大学全くばらばらの方式で入試を行っていたが、大学の統合により入試方式も統一される。入試方式の基本は一般方式では前期・後期、センター方式は前期・中期・後期。一般、センター各期とも3教科・2教科の方式がある。ただし、教育学部や看護学部では2教科方式を実施しないなど学部により違いがあるので詳細は本冊子を参照していただきたい。

## ⑤近畿地区

**関西大**は法、社会安全学部のセンター利用入試で方式変更を行う。2学部とも前期6科目型を導入。社会安全学部では前期3教科型を文系・理系それぞれで募集していたが3（4）科目型の1方式に統合し、文系生、理系生どちらでも受験できる選択科目に変更する。

**関西学院大**では教育学部教育科学コースで理系型の方式を導入する。一般方式の全学部日程、学部個別日程それぞれで、英・数ⅢC・理の3教科を課す。理工学部生命科学専攻・生命医化学専攻はセンター方式の理科の入試科目に変更があり、地学の選択ができなくなる。神学部では関学独自方式日程の英語・小論文型を廃止し、代わりに同じ独自方式日程の関学英語併用型を実施する。また、センター方式の1月5科目型も新規実施する。

**立命館大**は入試制度そのものの変更ではないが方式の名称を変更する。2月に実施するスタンダード3教科型、特定科目重視3教科方式をそれぞれ全学統一方式、学部個別配点方式とし、薬学部のスタンダード3教科型を薬学方式に変更する。情報理工学部では英国数3教科型を3教科すべて大学独自試験で実施していたが、来年度は国語の成績についてはセンター試験を利用する。文系の一部の学科で実施していたW方式は廃止する。

**近畿大**の文芸学部（芸術学科を除く）ではセンター併用のPC方式（前期・後期）を導入、薬学部創薬科学科ではセンター方式のC方式（前期・中期・後期）を導入する。医学科の和歌山県地域枠は推薦入試としての実施に変更になる。

そのほか、この地区でセンター利用入試を新規で導入する大学は**関西医科大**と**天理医療大**の2大学。関西医科大は一般方式に加え、センター試験4教科6科目と面接で判定。天理医療

大は一般方式に変え、センター試験3教科と小論文・面接の入試方式に変更する。

## ⑥中国・四国地区

**広島修道大**では経済科学部と商学部でセンター併用入試を導入し、この入試方式を実施しない学部は法学部のみとなる。商学部の入試科目は大学独自試験・センター試験それぞれ3科目で判定し、他学部より判定科目が多いので注意が必要である。一般方式では法学部法律学科B日程、人間環境学部AB日程で国語の範囲が「現古」から「現のみ」に変更になる。経済科学部経済情報学科AB日程では2科目判定から3科目判定に負担増となる。

**広島国際大**は新設学科を除くすべての学科でセンター利用入試を導入する。入試科目は文系学科で2教科、理系学科で3教科を課す。

**倉敷芸術科学大**では一般方式の中期を廃止し、センター方式でⅢ期を追加する。入試科目の変更では一般方式の地歴の出題を止める。

## ⑦九州地区

この地区で入試方式を大きく変更するのは**福岡大**が挙げられる。一般方式では昨年までの前期・後期の2回に加え、全学部学科で系統別入試を実施する。この系統別入試は全学部を5つの系統に分類し、同一系統内であれば1回の受験で複数の学科に併願が可能な方式だ。ただし、医学部医学科だけは前期の募集から系統別入試のみの募集に変更する。センター方式では理学部でセンタープラス型を導入、工学部は5教科7科目型に加え3教科4科目型入試を電気工学科を除くすべての学科で実施する。入試科目の変更では文系学部のセンター試験利用入試とセンタープラス型入試で地歴と公民の2科目利用ができなくなる。

**西南学院大**では今春新設の心理学科でセンター利用入試を導入し、方式は他学科と同じ前期・併用型・後期を実施する。

## ◆改組・新增設やその他の動き

### ①新設大学はここ数年では最も少なく2大学が開設予定

ここ数年、5～6校ずつ新設大学が開設されていたが、来春新設予定の大学は2大学と例年に比べ少ない。**札幌保健医療大**（看護－看護）、**岡崎女子大**（子ども教育－子ども教育）であるが、設置される学部は看護と教育系で新增設学部のトレンドの学部である。岡崎女子大は短大を元に四年制大学を設置する。このような場合の多くは短大を募集停止するが、同大学は短大の入学定員を削減しそのまま存続させる。

### ②医療系の学部・学科新設が継続

医療系の学部・学科設置の動きが止まらない。就職状況が厳しく、受験生の資格志向が続いており、それに合わせて新しい学科の設置も続いている。看護学科は**帝京平成大**（千葉）、**共立女子大**（東京）、**創価大**（東京）、**東京医科大**（東京）、**関東学院大**（神奈川）、**関西国際大**（兵庫）の6大学で設置予定でそのうち5大学が首都圏に集中している。また、既存の大学では**聖路加看護大**（看護）が60名→75名、**東京慈恵医科大**（看護）が40名→60名に入学定員を増やす予定だ。

医療技術系の新設・改組は11大学にも上る。学部の新設は**北海道医療大**（リハビリテーション科学）、**広島国際大**（総合リハビリテーション）の2大学。学科、コースの新設では**国際医療福祉大**（福岡保健医療－医学検査）、**杏林大**（保健－診療放射線技術）、**関西医療大**（保健医療－臨床検査）などがある。

### ③「教育」系の学部・学科の新設に加え、既存学科の再編もさかん

教育系の学部・学科の設置も続いている。**学習院大**では文学部に教育学科を設置、**関西学院大**は既存の学科を再編し、教育学科に幼児教育・初等教育・教育科学の3コースを設置する。また、**日本体育大**では児童スポーツ教育学部を開設予定で、体育の専門知識を持った教員の養成を目指す。教育系以外の注目の新設学部として、**明治大**（総合数理）、**同志社大**（グローバル地域文化）などがある。

既存の学部・学科の再編もさかんに行われている。**東京都市大**は環境情報学部を環境学部とメディア情報学部、**東洋大**は生命科学部食環境学科を食環境学部食環境科学科（フードサイエンス専攻、スポーツ・食品機能専攻）、健康栄養学科に、文学部のインド哲学科と中国哲学文学科を東洋思想文化学科に改組する。社会や時代のニーズに加え、受験生に分かりやすい学部学科を設置することで、大学をアピールし受験生確保に努める姿勢が伺われる。

### ④首都圏、近畿圏でキャンパス移転の動き

前述した**青山学院大**以外にも、利便性のよい地にキャンパスを移転する動きがある。**東京理科大**の基礎工学部の2～4年次は千葉県野田キャンパスから新設の葛飾キャンパスに移る（1年次は従来どおり長万部キャンパス）。**明治大**も中野に新キャンパスをオープンし、新設の総合数理学部が入るほか、国際日本学部が杉並区のと泉キャンパスから移転する。**同志社大**は、文、法、経済、商学部の1～4年次すべてを京都市内の今出川キャンパスに集約する（今年までは1・2年次は京田辺市のキャンパス）。中部地区でも**中京大**が名古屋キャンパスを拡充し、豊田キャンパスにあった情報理工学部を改組して新設する工学部のうちの2学科を移設する。

### ⑤学費値下げやネット出願割引

長引く不況の中で受験生にアピールするため、学費や受験料の値下げに踏み切る大学が目立つ。授業料が高額な医学科の中で、**昭和大**が6年間の学費を2,650万円→2,200万円、**東邦大**が同3,180万円→2,580万円、**関西医科大**が同2,970万円→2,770万円に値下げする。

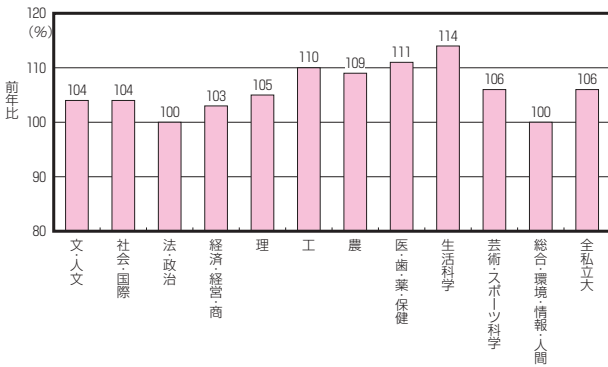
受験料の割引では、新たにインターネット（出願）割引や受験料返還制度を導入する**龍谷大**をはじめ、多数の大学がネット割引を導入している。

## ◆第2回全統マーク模試から見た志望動向

第2回全統マーク模試の受験者は前年比で105%、私立大の志望者数は一般方式は前年比105%、センター方式は同107%、全体では同106%となった。

ここ数年続いている、受験生の資格志向、文低理高の系統人気に変化は見られず、この傾向は入試本番でも変わらない

【グラフ6】私立大 学部系統別の志望動向  
(第2回全統マーク模試より)



だろう。【グラフ6】は学部系統別志望動向であるが、資格取得に直結する医療系の学部が高い人気を保っている。薬学部は一時期人気の陰りが見られたが、人気は回復し、志望者の前年比は114%と全系統の中で最も高くなっている。その他の医療系も高い値を示しており歯学系、看護系は前年比110%を超え、生活科学系も前年比114%と志望者数を伸ばしている。

不人気が続く文系学部を目を向けてみると、今回の模試でもその傾向に変化は見られない。特に法・政治系は前年比100%となっているものの、模試全体の前年比105%からみると5ポイント低くなっている。総合・環境・情報・人間系も前年比100%、ここ2年、入試本番でも志願者を減らしており、その傾向は続いているようだ。

理系の学部系統は工学系で前年比110%、農学系で同109%、理学系105%とさらに志望者増加の傾向にある。

各地区の主要大学の志望動向を確認しておく【表7】。北海道の北星学園大、北海学園大はともに志望者を減らしている。北星学園大は社会福祉、経済の2学部で志望者を大きく減らし前年比は90%を割り込んでいる。北海学園大は文系学部で志

望者を減らし、理系の工学部では増加と全国的な動向と同じ動きを見せている。東北地区では東北学院大が志望者を大きく増やしている。文学部は前年比98%と微減となっているが、他の学部ではすべて志望者が増加しており、各学部とも志望者の前年比は110%を上回っている。特に経済、経営学部では志望者の増加が目立ち前年比が120%を超えている。

首都圏では慶應義塾大、東京理科大が志望者前年比98%と減少となっているが、この2大学以外はほぼ前年並み～志望者増となっている。

東海地区では南山大が志望者を減らしているが、愛知大、中京大、名城大の3大学は志望者を増やしている。南山大が新規導入する全学統一入試は、受験生への認知がまだ低いのか今のところ志望者は集まっていない。中京大は志望者増となっているが、これは工学部の改組によるところが大きい。

近畿地区では学部の新設がある同志社大と人気学部の教育学部を改組する関西学院大で志望者増が大きい。同志社大に開設予定のグローバル地域文化学部は1,260人の志望者を集めている。関西大でも政策創造学部国際アジア法政策学科を新設予定だが、今回の模試では未対応なため今後の模試での動向に注目したい。

西南学院大と福岡大は西南学院大が微減、福岡大が微増となっている。方式別の状況は西南学院大が一般方式で減少、センター方式で増加、福岡大は一般方式で増加、センター方式で減少となっている。

来春入試の動向は、次回模試の動向を踏まえて、本誌12月号でさらに詳細をご報告したい。

【表7】主要大志望者数

大学名	一般方式志望者数			センター方式志望者数			合計		
	11年度	12年度	前年比	11年度	12年度	前年比	11年度	12年度	前年比
北星学園	1,807	1,547	86%	1,254	1,240	99%	3,061	2,787	91%
北海学園	3,393	2,926	86%	1,922	2,172	113%	5,315	5,098	96%
東北学院	3,840	4,072	106%	3,315	3,975	120%	7,155	8,047	112%
青山学院	25,296	25,135	99%	8,449	8,232	97%	33,745	33,367	99%
慶應義塾	29,122	28,563	98%	—	—	—	—	—	—
上智	17,404	19,289	111%	—	—	—	—	—	—
中央	20,673	21,445	104%	8,195	8,428	103%	28,868	29,873	103%
東京理科	11,693	11,874	102%	12,819	12,209	95%	24,512	24,083	98%
法政	27,735	28,852	104%	7,916	8,190	103%	35,651	37,042	104%
明治	41,358	44,229	107%	15,456	16,497	107%	56,814	60,726	107%
立教	25,537	26,114	102%	10,123	9,899	98%	35,660	36,013	101%
早稲田	53,332	53,588	100%	10,545	10,327	98%	63,877	63,915	100%
愛知	10,561	10,788	102%	2,785	3,042	109%	13,346	13,830	104%
中京	12,406	13,224	107%	3,934	4,356	111%	16,340	17,580	108%
南山	12,867	12,225	95%	4,369	4,279	98%	17,236	16,504	96%
名城	15,892	17,498	110%	4,374	4,382	100%	20,266	21,880	108%
同志社	23,655	25,682	109%	12,724	13,403	105%	36,379	39,085	107%
立命館	23,175	22,686	98%	17,200	18,993	110%	40,375	41,679	103%
関西	24,842	26,336	106%	10,404	10,131	97%	35,246	36,467	103%
関西学院	21,021	22,520	107%	6,910	7,009	101%	27,931	29,529	106%
西南学院	5,218	4,674	90%	4,906	5,216	106%	10,124	9,890	98%
福岡	13,449	15,039	112%	10,560	9,272	88%	24,009	24,311	101%

※第2回全統マーク模試より